

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
61	27.38	27.85	(岩級区分欄)CM	27.38	27.85	(岩級区分欄)CL	27.38	27.85	(岩級区分欄)CLに含める	-
62	27.95	28.00	剪断性の節理が局所的に集中し脆弱となる	27.95	28.00	せん断性の節理が局所的に集中し脆弱となる。節理沿いの細粒部の分布は局所的で連続せず、脆弱部の範囲には原岩組織が認められる。	27.95	28.00	27.95~28.00m: 割れ目が局所的に集中し脆弱となる。割れ目沿いの細粒部の分布は局所的で連続せず、脆弱部の範囲には原岩組織が認められる。	-
63	-	-	-	28.10	28.10	傾斜60°、幅5~12mmのアフライト細脈を挟む。境界面は付着している。	28.10	28.10	28.10m: 傾斜60°で幅5~12mmのアフライト細脈を挟む。境界面は付着している。	-
64	28.24	28.24	低角度で幅10mm砂~礫状となる。上下端はシャープ。	28.24	28.24	25°程度で幅10mm砂~礫状となる。上下端はシャープ。	28.24	28.24	28.24m: 25°程度で幅10mmが砂~礫状となる。上下端はシャープである。	-
65	29.48	29.91	微細な割れ目が集中し、かつ、コアは軟質となる。29.59m~ 微細な割れ目はマンガンに汚染される。	29.48	29.91	微細な割れ目が集中し、かつ、コアは軟質となる。29.59m~29.91m 微細な割れ目はマンガンに汚染される。	29.48	29.91	29.48~29.91m: 微細な割れ目が集中し、かつ、コアは軟質となる。29.59m~29.91mの微細な割れ目はマンガンに汚染される。	-
66	29.60	29.70	剪断性の節理が卓越する。	29.60	29.70	せん断性の節理が卓越する。節理は全体にマンガン汚染により黒色化し、節理には細粒部が認められず、節理が卓越する区間中に分布する幅2mmの石英脈にずれが認められない。また、節理が卓越する区間及び周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	29.60	29.70	29.60~29.70m: 割れ目が卓越する。割れ目は全体にマンガン汚染により黒色化し、割れ目には細粒部が認められず、割れ目が卓越する区間中に分布する幅2mmの石英脈にずれが認められない。また、割れ目が卓越する区間及び周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	-
67	-	-	-	29.65	29.65	傾斜45°、幅1~3mmの石英脈を挟む。	29.65	29.65	29.65m: 傾斜45°で幅1~3mmの石英脈を挟む。	-
68	29.74	29.78	ごく小規模な破砕帯 上盤70° 白色粘土2mm、下盤67° マンガン汚染顕著。上盤側は幅10mmで一部で変質を伴う。	29.74	29.78	ごく小規模な破砕帯 上盤70° 白色粘土幅2mm、下盤67° マンガン汚染顕著。いずれも直線的に連続する。上盤側は幅10mmで一部で変質を伴う。径2~20mmの岩片主体で岩片間にマンガン汚染が見られる。やや軟質な粘土混じり礫状破砕帯(H)。含まれる白色粘土は不連続で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。最新活動面は上端か下端の可能性があり、にぶい橙色を呈する。幅23mm。	29.74	29.78	●29.74~29.78m: 破砕帯 粘土混じり礫状帯(H) 上盤70°で幅2mmの白色粘土を一部に伴い、下盤67°でマンガン汚染が顕著に見られ、いずれも直線的に連続。径2~20mmの岩片主体で岩片間にマンガン汚染が見られる。上盤側は幅10mmで一部変質を伴う。にぶい橙色を呈する。幅23mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
69	30.10	30.69	低角度の割れ目が優勢である。	30.10	30.69	25°前後の割れ目も見られる	30.10	30.69	30.10~30.69m: 25°前後の割れ目が見られる。	-
70	30.62	30.73	この間、やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条見られ、マンガンが3~5mmの厚さで析出している。	-	-	-	30.62	30.73	30.62~30.73m: やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条分布し、マンガンが幅3~5mmで挟む。	-
71	31.77	31.93	やや低角度の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。	31.77	31.93	25°前後の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。	31.77	31.93	31.77~31.93m: 25°前後の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。	-
72	31.87	31.91	剪断を受ける。上盤45° 暗緑灰色の粘土~シルトを3mm伴う。下盤40°。上下盤の間はやや緑色味を帯び軟質である。	31.87	31.91	せん断を受ける。上盤45° 暗緑灰色の粘土~シルトを3mm伴う。下盤40°。上下盤の間はやや緑色味を帯び軟質である。含まれる細粒部は不連続で、軟質な区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	31.87	31.91	31.87~31.91m: 上盤45°で幅3mmの暗緑灰色の粘土~シルトを伴う。下盤40°。上下盤の間はやや緑色味を帯び軟質である。含まれる細粒部は不連続で、軟質な区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
		(最大コア長欄)10			(最大コア長欄)12			(最大コア長欄)12	
73	32.00	33.00	32.00	33.00		32.00	33.00		-
74	-	-	32.05	32.72	割れ目治いの酸化汚染が目立つ	32.05	32.72	32.05~32.72m: 割れ目治いの酸化汚染が目立つ。	-
75	32.36	32.39	32.36	32.39	20°~30°程度のせん断性の節理が平行して集中する。上端・下端の節理はマンガン汚染により黒色化しているが、節理には細粒部が認められず、節理周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	32.36	32.39	32.36~32.39m: 20°~30°程度の割れ目が平行して密集する。上下端の割れ目はマンガン汚染により黒色化しているが、割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
76	32.68	32.73	32.68	32.73	30°程度の節理がほぼ平行して集中する。緑泥石の薄い脈が3条見られる	32.68	32.73	32.68~32.73m: 30°程度の割れ目がほぼ平行して密集する。緑泥石の薄い脈が3条分布する。	-
77	33.00	33.62	-	-	30°~50°の割れ目が優勢。割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。	33.00	33.62	33.00~33.62m: 30°~50°の割れ目が卓越し、割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。	-
78	-	-	33.00	33.46	33.00m, 33.46mの割れ目には幅2~5mm程度で緑色化が見られる。	33.00	33.46	33.00m, 33.46mの割れ目には幅2~5mm程度で緑色化が見られる。	-
79	-	-	33.30	33.30	33.30mの割れ目には幅1~3mmの灰白色粘土化が見られる。	33.30	33.30	33.30m: 割れ目には幅1~3mmの灰白色粘土化が見られる。	-
80	-	-	34.11	34.22	不規則な微細な割れ目が多い	34.11	34.22	34.11~34.22m: 不規則な微細な割れ目が多い。	-
81	-	-	34.22	34.22	傾斜65°, 幅9mmの石英脈を挟む。	34.22	34.22	34.22m: 傾斜65°で幅9mmの石英脈を挟む。	-
82	34.30	34.42	34.30	34.42	割れ目が集中し、礫~岩片状コアとなる。人為的?	34.30	34.42	34.30~34.42m: コアチューブ引き上げ時の擾乱により機械割れ目が集中し、礫~岩片状コアとなる。	-
83	34.55	34.55	34.55	34.55	付近、局所的(連続しない)に低角度で破砕され細礫状となる	34.55	34.55	34.55m付近、傾斜38°で局所的で連続しない細礫部を伴う。細礫部は途中でせん滅し、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
84	-	-	34.78	34.78	傾斜50°, 幅1mm以下の石英脈を挟む。	34.78	34.78	34.78m, 34.79m: 傾斜50°で幅1mm以下の石英脈を挟む。後者の割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。	・石英脈についての記事内容が同じであるため、34.79mの深度も含めて記載した。 灰白色粘土の挟みについて追記した
85	-	-	34.79	34.79	傾斜50°, 幅1mm以下の石英脈を挟む。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。	-	-	-	・上記にまとめ書きしたため記載しない
86	-	-	35.32	35.32	傾斜40°, 幅2~3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びる。	35.32	35.32	35.32m: 傾斜40°で幅2~3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びる。	-
87	35.60	35.78	35.60	35.78	低角度のほぼ平行した割れ目が集中し脆弱となる。割れ目治いに白色の脈物脈が見られる所が多い。	35.60	35.78	35.60~35.78m: 35°程度のほぼ平行した割れ目が密集し脆弱となる。割れ目治いに白~灰黄色の粘土脈が見られる所が多い。	-
88	35.72	35.72	35.72	35.72	付近、せん断破砕を局所的に受け、礫状となる	35.72	35.72	35.72m付近は礫状であるが、挟在する細粒部は局所的に分布し、連続性に乏しく、35.70~35.72m間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名:H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
89	-	-	35.78	39.40	割れ目沿いの酸化及びマンガン汚染が目立つ。	35.78	39.40	35.78~39.40m:割れ目沿いの酸化及びマンガン汚染が目立つ。	-
90	35.78	37.36	35.78	37.36	(割れ目状懸濁)blank (岩級区分欄)CL	35.78	37.36	(割れ目状懸濁)blank (岩級区分欄)CM	-
91	36.14	36.35	-	-	-	36.14	36.35	36.14~36.35m:割れ目がやや卓越する。	-
92	-	-	36.25	37.20	傾斜70°以上の高角度割れ目が見られる。	36.25	37.20	36.25~37.20m:傾斜70°以上の高角度割れ目が見られる。	-
93	-	-	36.86	39.40	傾斜50~70°の割れ目が主体	36.86	39.40	36.86~39.40m:傾斜50~70°の割れ目が主体となる。	-
94	36.98	37.10	36.98	37.10	75°の割れ目に沿って劣化する。厚さ12mmで白色化し、細礫~砂状となる。	36.98	37.10	36.98~37.10m:75°の割れ目に沿って幅12mmで白色化し、細礫~砂状となる。	-
95	37.36	37.36	37.36	37.36	25°の割れ目に沿って厚さ4mmの暗褐色のシルト~砂が挟まる(流入?)	37.36	37.36	37.36m:25°の割れ目に沿って幅4mmの暗褐色のシルト~砂が流入する。	-
96	37.36	37.98	37.36	37.98	割れ目沿いの酸化汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。	37.36	37.98	37.36~37.98m:割れ目沿いの酸化汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。	-
97	37.98	38.08	37.98	38.08	(割れ目状懸濁)blank	37.98	38.08	(割れ目状懸濁)blank	-
98	37.98	38.27	37.98	38.27	(岩級区分欄)CH	37.98	38.27	(岩級区分欄)CHに含める	-
99	38.08	38.27	38.08	38.27	(コアの形状欄)IVblank	38.08	38.27	(コアの形状欄)IIIblank	-
100	38.08	38.96	38.08	38.96	挟在物が見られる割れ目は、38.53mの高角度のものが1条のみ。	38.08	38.96	38.08~38.96m:挟在物を伴う割れ目は、38.53mの70°の1条のみである。	-
101	38.96	38.96	38.96	38.96	以深、割れ目に沿って劣化するものが多い	38.96	38.96	38.96m以深、割れ目に沿って劣化するものが多い。	-
102	38.96	39.40	38.96	39.40	(岩級区分欄)CM	38.96	39.40	(岩級区分欄)CMに含める	-
103	39.10	39.40	39.10	39.40	(コアの硬さ欄)Bblank	39.10	39.40	(コアの硬さ欄)Bblank	-
104	39.21	39.21	-	-	-	39.21	39.65	39.21m、39.60~39.65m:割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂~細礫状となる。	記事内容が同じであるため、39.60~39.65mの深度も含めて記載した
105	39.60	39.65	-	-	-	-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない
106	40.64	40.93	40.64	40.93	不規則な割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化が明瞭。灰白色~黄褐色の砂~細礫となる所が多い。割れ目沿いに変質している。	40.64	40.93	40.64~40.93m:不規則な割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化による劣化が明瞭である。灰白~黄褐色の砂~細礫状となる所が多い。	-
107	40.95	41.00	40.93	41.00	割れ目に沿って劣化。細礫状となる。	40.93	41.00	40.93~41.00m:割れ目に沿って劣化し、細礫状となる。	-
108	41.00	41.20	41.00	41.20	低角度と高角度の割れ目が交差し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い	41.00	41.20	41.00~41.20m:低角度と高角度の割れ目が交差し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
123	45.10	45.10	45.10	45.10	せん断性の節理。上端側は一部、幅20mmで脆弱となる。絹雲母が散在し、緑色化が著しい。節理に細粒部は認められず、節理の上位側の脆弱部は局所的に分布し、連続性に乏しい。周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	45.10	45.10	45.10m: 割れ目に沿って上端側は一部、幅20mmで脆弱となる。絹雲母が散在し、緑色化が著しい。割れ目に細粒部は認められず、割れ目の上位側の脆弱部は局所的に分布し、連続性に乏しい。周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
124	45.42	45.62	-	-	-	45.42	45.62	45.42~45.62m: 微細な割れ目が密集し、コアも軟質で表面がザラつく所が多い。	-
125	45.73	45.80	45.73	45.80	割れ目沿いに劣化し、黄褐色の礫状~砂状となる。	45.73	45.80	45.73~45.80m: 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の礫~砂状となる。	-
126	46.10	46.35	-	-	-	46.10	46.35	46.10~46.35m: 60~70°の割れ目が密集する。挟在物を見られるが、汚染はほとんど見られない。	-
127	46.10	46.28	46.10	46.28	(コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL	46.10	46.28	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM (コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CMに含める	-
128	46.10	47.11	46.10	47.11	(割れ目状態欄)cランク	46.10	47.11	(割れ目状態欄)bランク	-
129	47.11	47.32	-	-	-	47.11	47.32	47.11~47.32m: 微細な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる。	-
130	47.36	47.53	47.36	47.53	高角度と低角度の割れ目が交叉し格子状となる。割れ目の汚染は見られないが、砂状の挟在物が見られる。	47.36	47.53	47.36~47.53m: 高角度と低角度の割れ目が交叉し格子状となる。割れ目に汚染は見られないが砂状の挟在物を伴う。	-
131	47.53	47.76	47.53	47.76	(岩級区分欄)CM	47.53	47.76	(岩級区分欄)CLに含める	-
132	47.76	-	47.76	48.39	微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。	47.76	48.39	47.76~48.39m: 微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。	-
133	47.76	47.88	-	-	-	47.76	47.88	47.76~47.88m: 割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭である。	-
134	48.30	48.33	48.30	48.33	(破碎度区分欄)Hc-1	48.30	48.33	(破碎度区分欄)Hc-1	-
135	48.38	48.38	48.39	48.43	破碎部 上盤52° 下盤45° 幅30mmやや赤味を帯びる 砂混じり粘土状~礫質砂状部(Hc-2) 上端52°、下端45°。上端側は幅6~10mmでにぶい橙色を呈する砂混じり粘土状部、下端側は幅12~20mmで灰白色を呈する礫質砂状部(Hc-2)からなり、いずれも原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。全体に硬質で両者の境界は波打っている。	48.39	48.43	●48.39~48.43m: 破碎部 砂混じり粘土状~礫質砂状部(Hc-2) 上端52°、下端45°。上端側は幅6~10mmでにぶい橙色を呈する砂混じり粘土状部、下端側は幅12~20mmで灰白色を呈する礫質砂状部からなる。両者の境界は波打っている。全体としてやや赤味を帯びる。幅30mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
136	48.43	60.07	48.43	60.07	(変質欄)3ランク	48.43	60.07	(変質欄)2ランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
137	-	-	48.74	48.74	傾斜40°の割れ目に幅1mm以下の灰白～緑灰色粘土を挟む。下端側幅2cm程度は長石の白濁化が目立つ。	48.74	48.74	48.74m: 傾斜40°の割れ目に幅1mm以下の灰白～緑灰色粘土を挟む。下端側幅2cm程度は長石の白濁化が目立つ。	-
138	-	-	48.87	48.87	傾斜42°の割れ目とそれと直交する40～50°の割れ目に沿ってマンガン汚染が見られる。	48.87	48.87	48.87m: 傾斜42°の割れ目とそれと直交する40～50°の割れ目に沿ってマンガン汚染が見られる。	-
139	-	-	49.02	49.18	不規則な割れ目が発達する。	49.02	49.18	49.02～49.18m: 不規則な割れ目が発達する。	-
140	49.18	49.18	49.18	49.18	せん断性の節理。63°。上端側幅20mm劣化し脆弱となる。 幅2mm以下の褐色粘土及び上端側の脆弱部は途中でせん滅し、連続性に乏しい。周辺は幅5mm程度で緑色化している。周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	49.18	49.18	49.18m: 63°で、上端側幅20mmが劣化し脆弱となる。幅2mm以下の褐色粘土及び上端側の脆弱部は途中でせん滅し、連続性に乏しい。周辺は幅5mm程度で緑色化する。周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	-
141	49.43	49.43	49.43	49.43	白色～黄褐色の鉱物脈。風化しやや軟質。幅2～4mm、角度47°	49.43	49.43	49.43m: 47°で幅2～4mmの白～黄褐色の鉱物脈を挟む。風化しやや軟質である。	-
142	50.09	50.09	50.09	50.09	70°の開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出	50.09	50.09	50.09m: 15～70°の湾曲した開口割れ目に幅5mmのマンガンを挟む。	-
143	50.39	50.60	50.39	50.60	劣化しコア全体が軟質。表面は砂状となる所がある。軟質・脆弱。	50.39	50.60	50.39～50.60m: 劣化し全体が軟質で、表面は砂状となる所がある。	-
144	50.39	50.60	50.39	50.60	(岩級区分欄)D	50.39	50.60	(岩級区分欄)CLに含める	-
145	50.58	50.92	50.58	50.92	白色細脈が不規則に入る。	50.58	50.92	50.58～50.92m: 白色粘土細脈が不規則に分布する。	-
146	51.20	51.43	51.20	51.43	微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って淡い桃色脈(カリ長石)が見られる所が多い。	51.20	51.43	51.20～51.43m: 微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目沿いに幅1mm以下でふいふい橙色粘土を挟む所が多い。	-
147	51.66	51.97	-	-	微細な割れ目が非常に卓越(30～50°)。コアは軟質となる。	-	-	51.66～51.97m: 30～50°の微細な割れ目が非常に卓越し軟質となる。	-
148	51.90	51.90	52.90	52.90	45°の割れ目沿いに変質した白色鉱物脈。厚さ4mm。汚色汚染明瞭。	52.90	52.90	52.90m: 45°で幅4mmの変質した黄褐色粘土脈を挟む。褐色汚染が明瞭である。	-
149	-	-	52.11	53.35	傾斜20°以下の微細な割れ目が1～3cm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	52.11	53.35	52.11～53.35m: 傾斜20°以下の微細な割れ目が1～3cm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	-
150	52.48	52.44	52.38	52.44	微細な割れ目が密集。コアは局所的に礫状となる。上盤側の割れ目に厚さ4mmのマンガン挟在する。	52.38	52.44	52.38～52.44m: 微細な割れ目が密集し、局所的に礫状となる。上端側の割れ目に幅4mmのマンガンを挟む。	-
151	52.44	53.35	52.44	53.35	低角度の割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	-	-	-	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
152	53.54	53.59						53.54~53.59m: 割れ目沿いの劣化が明瞭で、一部は細礫~砂状となる。	-
153	53.74	53.74	53.84	53.84	高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる。	53.84	53.84	53.84m: 高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる。	-
154	54.66	54.73	54.66	54.73	50~60°のほぼ平行な割れ目に沿って劣化。一部礫状となる。褐色汚染も顕著。	54.66	54.73	54.66~54.73m: 50~60°のほぼ平行な割れ目に沿って劣化し、一部礫状となる。褐色汚染も顕著に見られる。	-
155	54.96	55.55	54.96	55.55	傾斜20°以下の割れ目が非常に卓越する	54.96	55.55	54.96~55.55m: 傾斜20°以下の割れ目が非常に卓越する。	-
156	55.56	55.56	55.56	55.56	50°の割れ目間に厚さ8mmで砂が挟在する。褐色汚染も明瞭である。	55.56	55.56	55.56m: 50°の割れ目間に幅8mmで黄褐色の砂を挟む。褐色汚染も明瞭である。	-
157	56.06	56.41	56.06	56.41	(岩級区分欄)CM	56.06	56.41	(岩級区分欄)CLに含める	-
158	56.41	57.09	56.41	57.09	(割れ目状態欄)cランク	56.41	57.09	(割れ目状態欄)bランク	-
159	56.45	56.61	56.45	56.61	高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。	56.45	56.61	56.45~56.61m: 高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。	-
160	56.74	56.74	-	-	71°の割れ目に褐色粘土厚さ3mm挟在。	56.74	56.74	56.74m: 71°で幅3mmの褐色粘土を挟む。	-
161	56.88	56.98	-	-	約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越。一部礫状コアとなる。	56.88	56.98	56.88~56.98m: 約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越し、一部礫状となる。	-
162	57.24	58.50	-	-	この間、多くの割れ目に褐色汚染が見られる。	57.24	58.50	57.24~58.50m: 多くの割れ目に褐色汚染が見られる。	-
163	57.41	57.41	57.41	57.54	(岩級区分欄)CL	57.41	57.54	(岩級区分欄)CLに含める	-
164	57.54	57.74	57.54	57.74	割れ目沿いに劣化。軟質、脆弱。	57.54	57.74	57.54~57.74m: 傾斜50~66°の割れ目沿いに劣化し、軟質である。幅1~3mmの黄褐色粘土を挟む。	-
165	57.91	58.71	57.91	58.71	(割れ目状態欄)cランク	57.91	58.71	(割れ目状態欄)bランク	-
166	57.91	58.06	57.91	58.06	(岩級区分欄)CL	57.91	58.06	(岩級区分欄)CM	-
167	58.06	58.71	58.06	58.71	砂状の挟在物が見られる割れ目が多いが、岩質は硬い。	58.06	58.71	58.06~58.71m: 岩質は硬い。	-
168	58.71	59.02	58.71	59.02	(岩級区分欄)CL	58.71	59.02	(岩級区分欄)CMに含める	-
169	59.02	59.34	-	-	潜在的なものを除き、割れ目のない柱状コア。岩質も硬い。	59.02	59.34	59.02~59.34m: 潜在割れ目を除き、割れ目のない柱状コアで、岩質も硬い。	-
170	59.02	59.34	59.02	59.34	(岩級区分欄)CH	59.02	59.34	(岩級区分欄)CMに含める	-
171	60.07	60.45	60.07	60.45	微細な割れ目が卓越し、コアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。	60.07	60.45	60.07~60.45m: 微細な割れ目が卓越し、変質により軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。灰白~にぶい橙色の粘土が網目状に分布する。	-
172	60.45	60.82	60.45	60.82	(変質欄)3ランク	60.45	60.82	(変質欄)2ランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
173	60.45	60.82	60.45	60.82	30~60°の平行に近い割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染が明瞭。	60.45	60.82	60.45~60.82m:30~60°の平行に近い割れ目が卓越し、割れ目沿いに褐色汚染が明瞭である。	-
174	60.82	61.72	60.82	61.72	微細な割れ目が卓越。コアも軟質で脆弱。特に61.40~61.58m間は劣化が顕著。	60.82	61.72	60.82~61.72m:微細な割れ目が卓越し、にぶい棕色の粘土が網目状に分布する。コアも軟質で、特に61.40~61.58m間は劣化が顕著で砂礫状を呈する。	-
175	61.72	62.36	61.72	62.36	コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。コアは軟質となり、表面がザラつく。	61.72	62.36	61.72~62.36m:コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。割れ目沿いの褐色汚染が見られる。コアは軟質となり、表面がザラつく。	-
176	61.72	62.36	61.72	62.36	(割れ目状態欄)0ランク (変質欄)3ランク	61.72	62.36	(割れ目状態欄)0ランク (変質欄)2ランク	-
177	62.36	63.25	62.36	63.25	コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優勢な不規則で微細な割れ目が卓越する。	62.36	63.25	62.36~63.25m:コアは軟質で表面がザラつく。低角度がやや優勢な不規則で微細な割れ目が卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。	-
178	-	-	62.40	62.52	-	62.40	62.52	62.40~62.52m:長石の白濁化が目立つ。	-
179	62.75	62.75	62.75	62.75	剪断性の割れ目(節理)。幅10mmやや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭。	62.75	62.75	62.75m:傾斜65°で幅10mmがやや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭。割れ目に幅1mm以下の灰黄色粘土を断続的に挟み、連続性に乏しい。同系統の割れ目は白色脈を横断している。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
180	63.00	63.26	-	-	劣化し全体に軟質、脆弱。割れ目に砂やシルトが生じている。	-	-	63.00~63.26m:劣化し全体に軟質である。割れ目に砂やシルトを挟む。	-
181	-	-	63.26	63.62	-	63.26	63.62	63.26~63.62m:上下位に比べて変質の程度は弱い。割れ目に緑灰色や黄褐色の粘土を挟む。	-
182	63.26	63.62	63.26	63.62	(変質欄)3ランク	63.26	63.62	(変質欄)2ランク	-
183	63.62	63.90	-	-	全体に軟質、脆弱。亀甲状の割れ目には灰白色のシルトが生じている。	-	-	63.62~63.90m:全体に軟質で、亀甲状の割れ目に灰白色シルトを挟む。	-
184	63.62	63.90	63.62	63.90	(コアの硬さ欄)0ランク	63.62	63.90	(コアの硬さ欄)0ランク	-
185	63.90	64.30	63.90	64.30	変質し軟質。割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。	63.90	64.30	63.90~64.30m:強く変質し軟質で、割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。原岩組織は認められる。	-
186	63.90	64.30	63.90	64.30	(コアの硬さ欄)0ランク	63.90	64.30	(コアの硬さ欄)Eランク	-
187	-	-	64.30	64.65	-	64.30	64.65	64.30~64.65m:上下位に比べて変質の程度は弱い。不規則な割れ目が発達している。酸化汚染は見られない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
188	64.30	64.65	(変質欄)3ランク (岩級区分欄)CL	64.30	64.65	(変質欄)2ランク (岩級区分欄)D	64.30	64.65	(変質欄)2ランク (岩級区分欄)Dに含める	-
189	64.65	64.91	破砕帯	64.65	64.91	破砕部 最新活動面は04.74mか04.80mの可能性ある。	64.65	64.91	●04.65～04.91m:破砕部 粘土混じり礫状部(H) 上端65°で直線的に連続。下端65°で不明瞭。径2～30mmの岩片主体で岩片間に幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。上端には暗灰色粘土を幅3mmで伴う。また、64.74m及び64.80mに傾斜60°で幅1～3mmの灰～灰白色シルト(Hc-2)を挟む。全体はにぶい黄褐色を呈する。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
190	64.65	64.65	上盤65°、粘土3mm	64.65	64.65	上端65°、やや軟質な暗灰色粘土を幅3mmで伴う。一部不連続。				
191	-	-	-	64.74	64.74	傾斜60°、幅1mm以下の硬質な灰～灰白色シルト(Hc-2)を挟む。直線的に連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。				
192	-	-	-	64.80	64.80	傾斜60°、幅1～3mmの硬質な灰～灰白色シルト(Hc-2)を挟む。直線的に連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。				
193	64.91	64.91	下盤65°(やや不鮮明)。これより上位礫状。上下盤の間に剪断面2条あり。	64.91	64.91	下盤65°(やや不鮮明)。これより上位(64.80～64.91m間)は礫状。上下端の間にせん断面2条あり。全体に粘土混じり礫状部(Hj)でやや硬質。含まれる灰白色粘土は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。にぶい黄褐色を呈する。				
194	64.91	65.13	(コアの硬さ欄)Dランク	64.91	65.13	(コアの硬さ欄)Bランク	64.91	65.13	(コアの硬さ欄)Bランク	-
195	64.91	65.59	(変質欄)3ランク	64.91	65.59	(変質欄)2ランク	64.91	65.59	(変質欄)2ランク	-
196	65.13	65.59	(コアの硬さ欄)Dランク	65.13	65.59	(コアの硬さ欄)Cランク	65.13	65.59	(コアの硬さ欄)Cランク	-
197	65.59	65.72	破砕される。110mm、砂～礫状。65.59m、65°、上盤65.72、62°、下盤、部分的に灰白色粘土2～3mm、明瞭なガウジは無い。	65.59	65.72	破砕部。 幅110mm、粘土混じり砂～礫状。径2～30mの岩片主体で、一部砂状化する。Hj。灰色を呈する。全体に軟質。含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。 65.59m、65°、上端、直線的に連続。 65.72m、30°、下端、不明瞭。部分的に灰白色粘土2～3mm、明瞭なガウジ粘土は無い。 最新活動面は65.65m(最も直線的で不連続ながら細粒部を伴う) 65.65m、傾斜65°、幅2～3mmの灰白色粘土を部分的に挟む。	65.59	65.72	●65.59～65.72m:破砕部 粘土混じり砂～礫状部(Hj) 上端65°で直線的に連続。下端30°で不明瞭。径2～30mmの岩片主体で、一部砂状化する。灰色を呈する。幅110mm、65.65mには傾斜65°で幅2～3mmの灰白色粘土を部分的に挟む。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
198	65.59	65.72	(コアの硬さ欄)Dランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状悪欄)○ランク (変質欄)3ランク (破砕度区分欄)-	65.59	65.72	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状悪欄)○ランク (変質欄)4ランク (破砕度区分欄)Hj	65.59	65.72	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状悪欄)○ランク (変質欄)4ランク (破砕度区分欄)Hj	-
199	-	-	-	65.72	65.85	網目状に微細な割れ目が発達し、所々、灰白色粘土を伴う。	65.72	65.85	65.72～65.85m:網目状に微細な割れ目が発達し、所々、灰白色粘土を伴う。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
200	-	66.30	65.85	66.30	傾斜20~80°までの様々な角度の割れ目が分布し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。	65.85	66.30	65.85~66.30m:傾斜20~80°までの様々な角度の割れ目が分布し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。	-
201	65.85	66.99	65.85	66.99	(コアの硬さ欄)Dランク (変質欄)3ランク	65.85	66.99	(コアの硬さ欄)Cランク (変質欄)2ランク	-
202	66.30	67.28	-	-	-	66.30	67.28	66.30~67.28m:割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著である。	-
203	66.97	67.28	66.97	67.28	割れ目が交叉し、細かい亀甲状となる。	66.97	67.28	66.97~67.28m:割れ目が交叉し、細かい亀甲状となる。	-
204	67.28	67.78	67.28	67.75	変質部、軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。	67.28	67.75	67.28~67.75m:変質部で、軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。健岩部との境界は明瞭であるが湾曲している。上端側は低角度の割れ目で境される。原岩組織は不明瞭。含まれる岩片に定向配列などは見られない。	-
205	67.28	67.75	67.28	67.75	(岩級区分欄)D (破砕度区分欄)Hb	67.28	67.75	(岩級区分欄)CLに含める (破砕度区分)-	-
206	-	-	67.85	68.70	傾斜30~50°程度の割れ目が主体。特に、68.23~68.64m間は0.5~3cm間隔で発達している。割れ目には所々、灰白色粘土やマンガンを伴う。	67.85	68.70	67.85~68.70m:傾斜30~50°程度の割れ目が主体で、特に、68.23~68.64m間は0.5~3cm間隔で発達する。割れ目には所々、灰白色粘土やマンガンを伴う。	-
207	67.85	68.07	67.85	68.07	(コアの硬さ欄)Dランク	67.85	68.07	(コアの硬さ欄)Cランク	-
208	67.85	80.13	67.85	80.13	(変質欄)3ランク	67.85	80.13	(変質欄)2ランク	-
209	68.07	-	68.07	68.97	割れ目が卓越し、コアも軟質で表面はザラつく。	68.07	68.97	68.07~68.97m:コアは軟質で表面がザラつく。	-
210	68.70	68.70	68.70	68.70	30°の割れ目。黄褐色粘土を厚さ8mm挟む。	68.70	68.70	68.70m:30°で幅8mmの黄褐色粘土を挟む。割れ目の周辺は幅5~10mm程度で緑色化が顕著である。	-
211	-	-	68.70	68.97	傾斜70~90°の割れ目が多い。	68.70	68.97	68.70~68.97m:傾斜70~90°の割れ目が多い。	-
212	68.97	69.08	-	-	-	68.97	69.08	68.97~69.08m:細礫~砂状を呈するが、粘土は挟まない。	-
213	68.97	69.08	68.97	69.08	(岩級区分欄)D	68.97	69.08	(岩級区分欄)CLに含める	-
214	69.08	69.85	69.08	69.85	(コアの硬さ欄)Dランク	69.08	69.85	(コアの硬さ欄)Cランク	-
215	69.28	69.33	-	-	割れ目沿いに劣化。細礫状となる。	69.28	69.33	69.28~69.33m:割れ目沿いに劣化し、細礫状となる。	-
216	-	-	69.59	69.59	傾斜30°の割れ目に沿ってわずかに緑色化している。	69.59	69.59	69.59m、69.70m:傾斜25~30°の割れ目沿いにわずかに緑色化する。	・記事内容が同じであるため、69.70mの深度も含めて記載した
217	69.63	69.77	69.63	69.77	高角度と低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭。	69.63	69.77	69.63~69.77m:50~70°の高角度と25°の低角度の割れ目が交叉し、高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭である。	-
218	-	-	69.70	69.70	傾斜25°の割れ目に沿ってわずかに緑色化している。	-	-	-	・上記にまとめたため記載しない
219	69.85	70.00	-	-	割れ目密集。岩片状コア。	69.85	70.00	69.85~70.00m:割れ目が密集し、岩片状を呈する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名 : H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 選定した記事内容			
220	70.06	70.06	70.06	70.06	付近、60°、幅20～30mmで局所的に弱く破碎され脆弱となる。 付近、60°、幅20～30mmで局所的に弱く破碎され脆弱となる。割れ目沿いの細粒部は連続性に乏しく、細粒部の下端側にある脆弱部も不連続で、脆弱部及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	70.06	70.06	70.06m付近、傾斜60°で幅20～30mmが局所的に脆弱となる。割れ目沿いの細粒部は連続性に乏しく、細粒部の下端側にある脆弱部も不連続で、脆弱部及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-		
221	-	-	70.06	70.06	傾斜55°で幅3～10mmの灰白色粘土を挟む。	70.06	70.06	70.06m: 傾斜55°で幅3～10mmの灰白色粘土を挟む。	-		
222	70.08	71.20	70.08	71.20	(割れ目状態欄)Cランク	70.08	71.20	(割れ目状態欄)Bランク	-		
223	-	-	70.91	72.00	アフライト脈を挟む。上端50°、下端はコア端部で不明。	70.91	72.00	70.91～72.00m: アフライト脈を挟む。上端50°、下端はコア端部で不明である。	-		
224	71.22	71.25	71.22	71.25	71.22m、60°、71.25m 54°、剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20～30mm脆弱となる。 71.22m、60°、71.25m 54°、せん断性の割れ目(節理)。この間、幅20～30mm脆弱となる。割れ目に挟む幅1mm以下の黄灰色粘土は不連続である。2条の割れ目の間は原岩組織が認められる。	71.22	71.25	71.22m・60°、71.25m・54°の割れ目間が幅20～30mmで脆弱となる。割れ目に幅1mm以下の黄灰色粘土を挟むが、不連続である。2条の割れ目の間は原岩組織が認められる。	-		
225	-	-	71.13	71.38	褐色化している。	71.13	71.38	71.13～71.38m: 褐色化する。	-		
226	-	-	71.25	71.33	マンガン汚染が顕著。	71.25	71.33	71.25～71.33m: マンガン汚染が顕著である。	-		
227	71.25	72.73	-	-	この間、やや軟質でコア表面はザラつく。	71.25	72.73	71.25～72.73m: やや軟質でコア表面はザラつく。	-		
228	71.73	71.95	71.73	71.95	(コアの硬さ欄)Dランク	71.73	71.95	(コアの硬さ欄)Cランク	-		
229	-	-	72.24	72.24	傾斜53°で幅1～3mmのマンガンを含む。	72.24	72.24	72.24m: 傾斜53°で幅1～3mmのマンガンを含む。	-		
230	72.33	72.33	72.33	72.33	32°の割れ目間に、一見麻痺土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8～15mm。 32°の割れ目間に、一見麻痺土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の硬質な砂固い砂状のものを挟む。厚さ8～15mm。細粒部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	72.33	72.33	72.33m: 32°の割れ目に幅9～15mmのマンガンに汚染された暗緑灰色の硬質な砂を含み、細粒部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-		
231	-	-	72.41	72.41	傾斜65°で幅1～2mmの灰白色粘土を不連続に挟む。	72.41	72.41	72.41m: 傾斜65°で幅1～2mmの灰白色粘土を不連続に挟む。	-		
232	-	-	72.48	72.48	傾斜38°の屈曲した割れ目に幅1～4mmのマンガンを含み。径1～2mmの花崗岩類の岩片を多く含む。	72.48	72.48	72.48m: 傾斜38°の屈曲した割れ目に幅1～4mmのマンガンを含み。径1～2mmの花崗岩類の岩片を多く含む。	-		
233	72.48	72.91	72.48	72.91	(割れ目状態欄)Cランク	72.48	72.91	(割れ目状態欄)Bランク	-		
234	73.03	73.30	73.03	73.30	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)Cランク	73.03	73.30	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	-		
235	73.56	73.56	73.56	73.56	65°の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4～10mm挟む。	73.56	73.56	73.56m: 65°で幅4～10mmのマンガン汚染された暗褐色のシルト質砂を含む。	-		